ポットアジサイの夏季及び秋季開花調節技術の検討

～新城市作手地区における鉢物新商品としての夏及び秋咲きアジサイ開発の試み～

山内高弘（新城設楽農林水産事務所農業改良普及課）

【平成２６年５月１５日掲載】

【要約】

新城市作手地区において、ポットアジサイを厳寒期（12下旬～３月中旬）には無加温ハウス（換気窓開けたまま）内で、４月は外の霜除け（寒冷紗）下、それ以降、開花まで　露地で管理することで、６～７月咲き栽培が容易にできることが分かった。 また、母の日前後に、花芽分化している枝を採穂・冷蔵し、９～10月に約80％の遮光、 24時間ＬＥＤ照明下で挿し芽を行ったところ、その一部が２週間程度で発根し、10～11月に開花することを確認した。

１　はじめに

新城市作手地区は、組合員数12名、ポットマム、クレマチス、ブライダルベールを主力品目とする「作手花き園芸組合（鉢花）」がある。しかし、近年、主力品目が固定化され、生産量も年々、減少する傾向にあった。そこで、組合では農業改良普及課等と協力して、この状況を改善するために鉢物アジサイの商品化に取り組んでいる。通常、平地のアジサイは３～５月出荷が主体である。これを作手地区の冷涼な気候（標高約500ｍ、豊橋市より平均気温で約3.5℃低い。図１）を利用して、平地と異なる時期に出荷できないか検討を行った。第一の出荷時期は、冬季霜除け下で管理して６～７月の夏季に開花させる、第二の出荷時期は５月の花芽分化枝を採穂・冷蔵し、９～10月に挿し芽を行い、10～11月の秋季に開花させるもので、作手地域における新たな主力品目になりうる可能性を追求した。

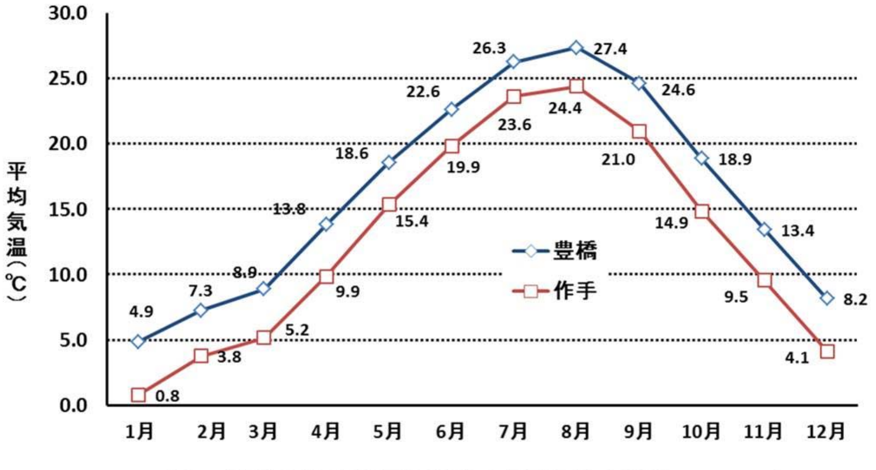

図1　新城市作手地区と豊橋の月別平均気温（2009－11年）

注）豊橋は気象庁のデータ、作手は新城東高等学校作手校舎の測定値。

２　展示概要、調査方法

（１）夏季（６～７月）開花における適品種の確認

田原市小塩津地区で、平成24年６月20～25日に挿し芽を行い、７月15日に３号ポリポット鉢上げを行ったものを、11月17日に作手地区鉢花農家の無加温ビニールハウス内（換気窓開放）に移動した。次いで、平成25年４月15日に５号仕上げ鉢に鉢上げし、外の霜

除け下（寒冷紗下：50％遮光）で開花まで管理した。品種は、、「ブルーダイアモンド：青」、「シュガーホワイト：白」、「カステリン：ピンク」、ピンククィーン：ピンク」を各５鉢用いた。

（２）秋季（10～11月）開花技術の検討

　採穂は、作手地区の在来ハイドランジャー（青）から３回行い（①採穂５月13日50本、②５月15日50本、③５月28日60本）、穂を調整して（15ｃｍ、葉４～６枚）、３℃の冷蔵庫へ入庫し、長期冷蔵を行った。その後、３号ポリポットに挿し穂１本ずつの直挿しを、３回に分けて行った（①　９月12日、②10月２日、③10月８日）。直挿し後は、作手地区の硬質フィルムハウス内において、80％遮光の寒冷紗下で、ＬＥＤ60ｗ２台（挿し穂上で約200μmol、24時間照射）、ポリフィルムのべたがけで管理した。発根後は、同施設内の50％遮光下で、開花まで管理した。

３　結果

（１）夏季（６～７月）開花適品種の確認

　開花日は、「ピンククィーン」が最も早く、「カステリン」が最も遅かった。しかし、いずれも6月18～22日の間に開花し、仕上げ鉢鉢上げ後の到花日数は、65～69日であった。

５鉢当たりの成品化数は、「ブルーダイアモンド」が３鉢、「シュガーホワイト」が２鉢で他は１鉢であった（表１）。

表 1 アジサイの冬季霜除け下育苗による夏季開花栽培の品種特性

品種名	開花日（月 日）	到花日数（日）	分枝数	着花数	開花時 草丈(cm)	開花時 節数(節)	成品化鉢数 5鉢当たり
ブルーダイアモンド	6月19日	66	3.7	3.3	13.2	7.2	3
シュガーホワイト	6月21日	68	4	3	10.3	5.8	2
カステリン	6月22日	69	5	4	12.8	5.2	1
ピンククィーン	6月18日	65	5	3	16.1	8	1

※到花日数は、仕上げ鉢鉢上げ(4月15日)後から開花日までの日数。

（２）秋季（10～11月）開花技術の検討

　挿し穂の冷蔵後、出庫時における正常な挿し穂は、冷蔵期間が長くなるにつれて減少し、冷蔵日数が130～140日であるものは、26.7～30％と極端に少なくなった。挿し芽後の発根所要日数は、直挿しのべたがけで、12～14日であった。また、到花日数は、いずれの時期も40～45日であった。挿し芽本数に対する開花株数は、９月12日挿しが23本/35本（70％）であった。しかし、挿し芽時期が遅い10月２日が３本/10本（30%)、10月８日が４本/15本（26.7%)と極端に少なくなった（表２）。

表2　アジサイの冬季露地育苗による秋咲き栽培の調査結果(在来青色ハイドランヤー使用)

挿し芽日(入庫後の冷蔵日数:日)	出庫時の挿し穂正常化数(率%)	開花日(到花日数)	開花株数(率%)	着花数	開花時 草丈(cm)	開花時 節数(節)	株(花)張り タテ(cm)	株(花)張り ヨコ(cm)
9月12日(122日)	35本/50本(70%)	10月21日(40日)	23(70%)	1.5	7.5	5.1	9.5	7.5
10月2日(140日)	10本/50本(20%)	11月13日(43日)	3(30%)	1.3	5.7	4.3	8.6	8.1
10月8日(134日)	15本/60本(25%)	11月21日(45日)	4(26.7%)	1.2	5.3	3.7	10.3	7.1

※挿し穂の入庫後冷蔵日数は各入庫時(5月13日、5月15日、5月28日)～出庫・挿し芽までの所要日数。
　到花日数は、挿し芽日から開花日までの日数、開花株率は、挿し芽本数に対する開花数(率)。

４　まとめ（考察）

以上の結果から、作手地区において、厳寒期（12下旬～３月中旬）を無加温ハウス（換気窓開放）内で管理し、４月以降は露地の寒冷紗下（霜除け状態）で栽培することで、６～７月咲き栽培が可能であることが分かった。品種は「ブルーダイアモンド」と「シュガーホワイト」が適する品種であると思われた。しかし、さらに多くの品種と供試鉢数で適品種を選定する必要がある。

アジサイの秋咲き栽培は、母の日前後に採穂・冷蔵処理を行い、残暑はあるものの、９～10月に、80%以上の遮光下、ＬＥＤ照明下で挿し芽を行うことで、２週間程度で発根が可能であることが分かった。また、その後も、潅水の省力下のために50%程度の弱い遮光下で生育させることで、通常の開花が可能であった。しかし、草丈や花の大きさ、花数は一つのみで、販売する商品としてはあまり評価できない結果となった。

そこで、本年度は、山間実験農場と協力して、二季咲き性品種を用いて、秋季開花の可能性を検証している。

写真１　夏季開花栽培「ブルーダイアモンド」

写真2　LED下での挿し芽状況

写真3　　アジサイの発根状況　9/27
（9/12挿し、挿し芽14日後）

写真4　　秋アジサイの開花状況

Copyright (C) 2014, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.